

鳥海ダムだより



国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所

2005.6
第11号



言葉の文化

由利本荘市長 柳田 弘

「水」にちなんだ言葉、諺となれば枚挙にいとまがないが、ここ10年くらい前から「親水」や「癒しの川」という言葉を目にする機会が多くなった。

時代と共に言葉は生まれ、そして使用頻度が乱高下するのは文化の流れとはいえ、たとえば携帯電話やインターネットの普及と共に「検索」という言葉をよく耳にし、「送受信」、「転送」といったアナログ文化では、目にも耳にもする機会の少なかった言葉が乱舞している。

我々、戦前生まれの者にとっては、「親水」なる言葉が出回る以前から、春になると河原でサシボやフキノトウを採り、夏には川で泳いで魚を獲り、そして時には農耕で疲れた飼い馬や牛の背を流したものだ。

そうやってレジャーなるものが皆無だった時代、人も家畜も川から癒しを貰っていたとすれば、川は「親」のような存在なのではないだろうか。

親水という言葉とともに「ファーストフード」という言葉が隆盛を極めていったが、つい最近では「スローフード」や「食育」という言葉を目にする。

欧米文化の流入により、戸外での飲食や外食産業が闊歩しもてはやされているが、一方では日本食が、世界一バランスの取れた食文化であると多くの専門家からお墨付きを貰っている。

生き物すべての最も基本的な行動となる「食」が人間を育てるとすれば、「地産地消」と「手間暇」を心がけ、「食」にゆとりを持つことが子供を育てる基本のようだ。

そして食の源、いや生命の源はおのずと知れた「水」である。9万2千「由利本荘市民」が、安全で安心な「川と水」を潤沢にできることこそが、英知に富み、心豊かな未来の子供達を育むこととなると思うのである。

平成17年度 鳥海ダム事業説明会

(4月27日 由利本荘市鳥海町・百宅防雪センター)

鳥海ダム調査事務所では、各種調査の予定や事業の進捗状況等の説明、また、地元の方との意見交換の機会として、鳥海町百宅地区の住民を対象とした事業説明会を毎年行っています。

鳥海ダム事業説明会は平成6年から行われ、今回で12回目を数えますが、今年の3月には旧鳥海町を含む1市7町が合併して「由利本荘市」となり、合併後としては初めての事業説明会となりました。



今回の事業説明会には、地元の鳥海総合支所に加えて、由利本荘市役所の方にも出席して頂きました。
(写真は由利本荘市企画調整部長 猿田正好氏)



開会の挨拶をする百宅水没生活対策会会長の小野昭八氏



お忙しい時期にも関わらず、当日は地元から27名の方が説明会に出席していただきました。
事業説明会では、今年度に行われる各種調査の内容や、着工に向けた今後の法的な事業手続きなどについて、スクリーンを使用して説明が行われました。



説明会後には、地元の方から鳥海ダム早期着工への要望や工事事務所への移行時期などについて質問があり、熱心な意見交換が行われました。

鳥海ダムの早期着工に向けて、当所職員一同、これからもなお一層の努力をしていきますので、引き続きのご理解・ご協力をお願いいたします。

「ISO14001」転入者研修

(5月11日 鳥海ダム調査事務所所内)

4月から当所に配属となった職員を対象に、「ISO14001」の所内研修が行われました。前号でもご紹介しましたが、鳥海ダム調査事務所はダムの調査事務所としては全国で初めて「ISO14001」の認証を取得しています。

当所では、事務所の運営を含めたダム事業が自然環境に与える影響をできるだけ減らし、良好な環境を維持していけるよう、職員が一丸となって取り組んでいきます。



転入者を対象とした現地研修会

(5月30日 由利本荘市鳥海町・百宅地内)

転入職員を対象として、ダム事業の詳細や周辺環境などについての現地研修会が、鳥海町の百宅地区で行われました。

当日はダムサイト予定地の視察や、絶滅が危惧されているクロカワゴケの実態調査などが行われ、普段現場を訪れる機会が少ない事務系の職員を含めて、参加した職員全員が鳥海ダムの重要性や必要性、環境保全の大切さなど、事業に対する認識を統一しました。



転入者紹介

- ① 氏名 ② 所属 ③ 前任地
④ 出身地 ⑤ ひとこと



- ① 森 栄 助
② 総務課
総務課長
③ 磐城国道事務所
④ 福島県

⑤ 微力ではありますが、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



- ① 松 村 昭 吉
② 補償調整課
補償調整課長
③ 酒田河川国道事務所

④ 山形県鶴岡市
⑤ どうぞよろしくお願い致します。



- ① 小野寺 絹 子
② 総務課 専門職
③ 秋田河川国道事務所
④ 秋田市

⑤ 1時間ちょっとの通勤で早寝早起き月9ドラマも我慢の毎日です。よろしくお願いします。



- ① 三 浦 博 之
② 調査設計課
調査係長
③ 最上ダム統管
④ 岩手県一関市

⑤ 3年振りにダム建設事業に戻ることができ、非常にうれしく思っています。鳥海ダムの早期建設着手に向け微力ながらがんばりたいと思います。



- ① 鬼 柳 総 雄
② 総務課 係員
③ 能代河川国道事務所
④ 岩手県盛岡市

⑤ 由利本荘市は初めてで、日々、新鮮な気持ちで過ごしております。よろしくお願いします。



- ① 佐 藤 香 織
② 総務課
非常勤職員
④ 由利本荘市
西目町

⑤ 自分達の地域の事なのでダムの事を勉強し、もっと知りたいと思っています。宜しくお願いします。

編集
後記

今号では、由利本荘市の初代市長になられました柳田市長から巻頭言のご寄稿を頂きました。お忙しい中、有難うございました。

今年3月の市町合併により誕生した由利本荘市は、秋田県内で最大の面積（全県面積の約1割）を持つ自治体となりました。それに伴い、取材の対象地域も大きく広がりましたので、今まで以上のフットワークで各地の話題を集めていきたいと思ひます。

編集・発行

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所

〒015-0074 秋田県由利本荘市桜小路32-1 TEL.0184-23-5120 FAX.0184-23-5451

ホームページアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/chokai/> e-mailアドレス chokai@thr.mlit.go.jp